

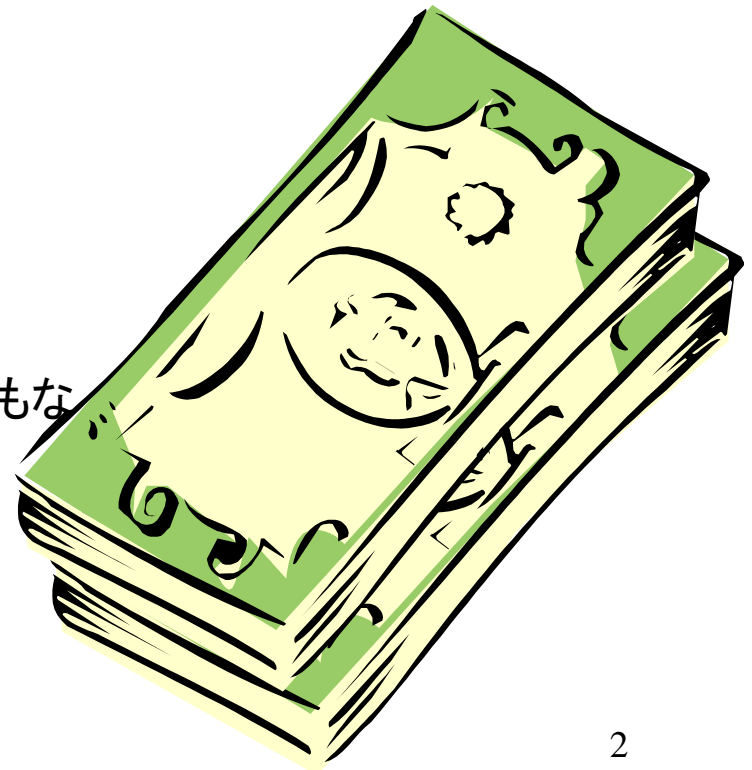
どうやったらあなたは10年後ま  
でに1億円を貯められるか？

2002/12/7

Toru S

# はじめに

- このセッションの意図するもの
  - 目標(「10年後に1億円」)を正確に認識
  - 目標達成に対する方向性を定める
  - 定まった方向性にしたがって、具体的な目標達成の方法を検討する
- 自己紹介
  - Toru S
    - \*\*\*\* KG Univ.卒業
    - 同 Y1証券株式会社入社
    - 1998 Y1証券株式会社自主廃業にともない退社
    - 同 ML日本証券株式会社入社
    - 2002 ML日本証券株式会社退社



# 目標の認識

# 10年後＝1億円は検討に値する

## 《生涯必要資金累計表》

主人	35
妻	27
子供	男1・女1

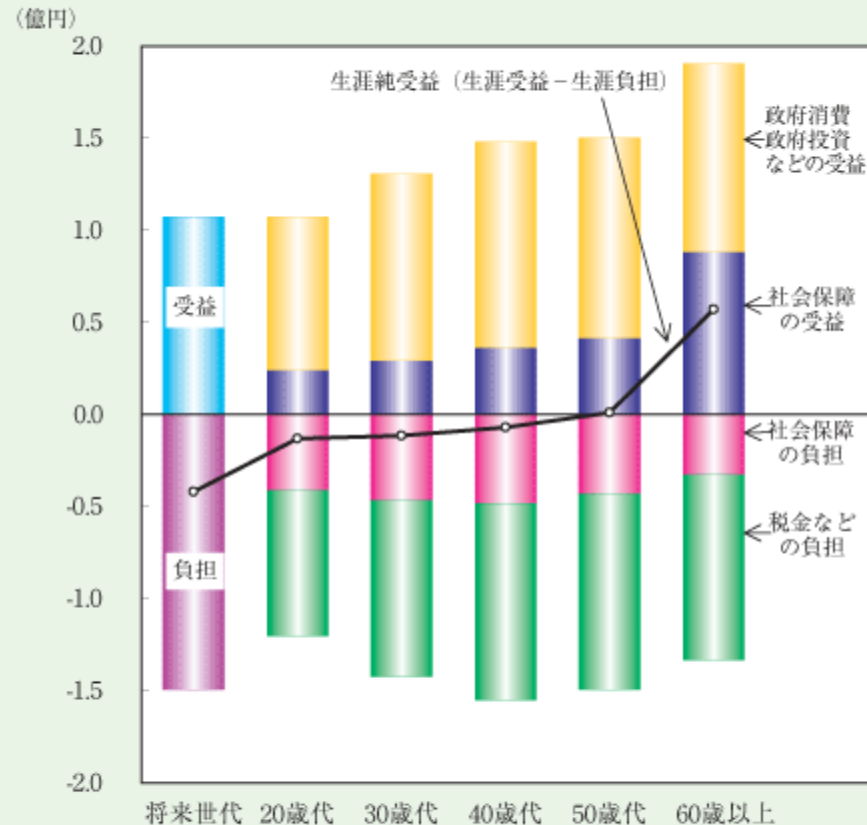
プルーデンシャル生命  
野村氏提供データ

	項目	金額(千円)
(+) 生活資金	生活資金	164,640
	住宅資金	0
	教育資金	30,860
	結婚資金	2,000
	死後整理資金	12,100
	緊急予備資金	1,050
	相続対策	0
		合計①
(-) 遺族年金	遺族年金	46,420
	老齢年金	14,510
	個人年金	0
	預貯金	0
	生命保険	0
	妻の収入	0
	その他収入	0
	退職金	0
	合計②	60,930
	収支	-149,720

# 「10年後＝1億円」は検討に価する

第3-3-5図 生涯の受益と負担

高齢世代は、生涯を通じて大幅な受益超過

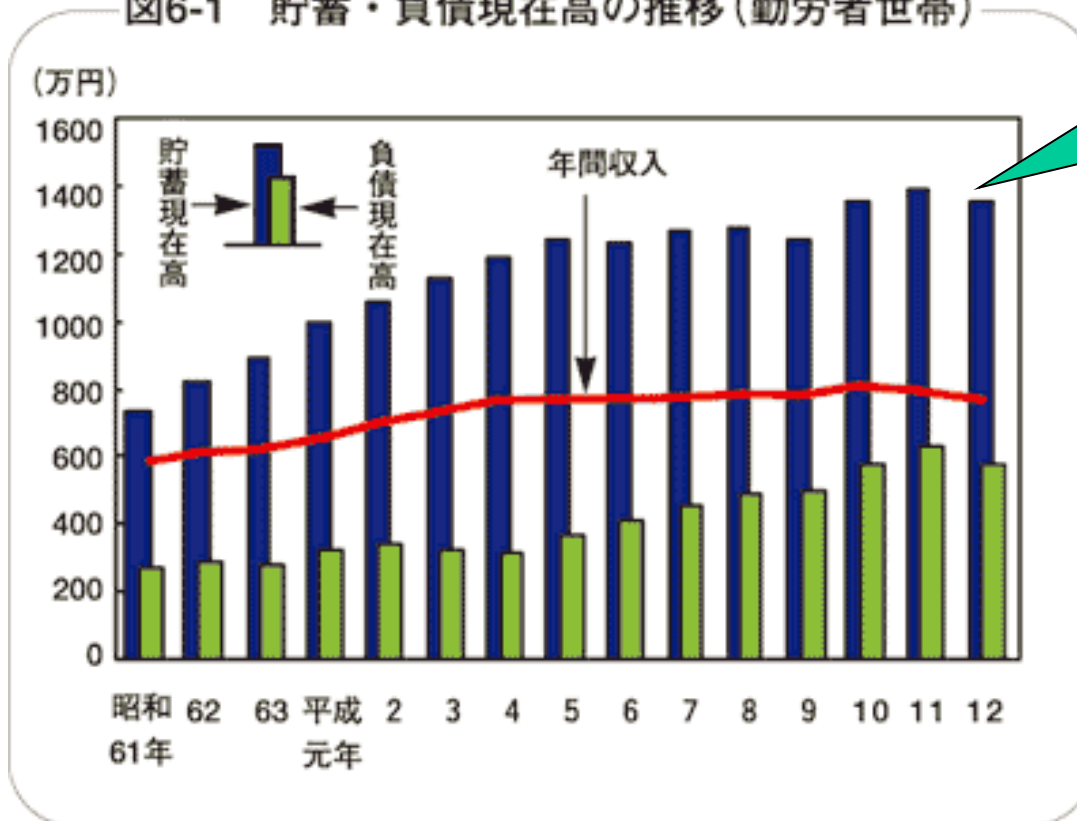


- (備考) 1. 内閣府「国民経済計算」、総務省「家計調査」「全国消費実態調査」「国勢調査」、厚生労働省「社会保障統計年報」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」により作成。  
 2. 将来世代は、最近時点(99年)の受益水準が今後も維持される前提により算出。

H13 内閣府  
「年次経済財政  
報告」より

# 国民の貯蓄水準

図6-1 貯蓄・負債現在高の推移(勤労者世帯)

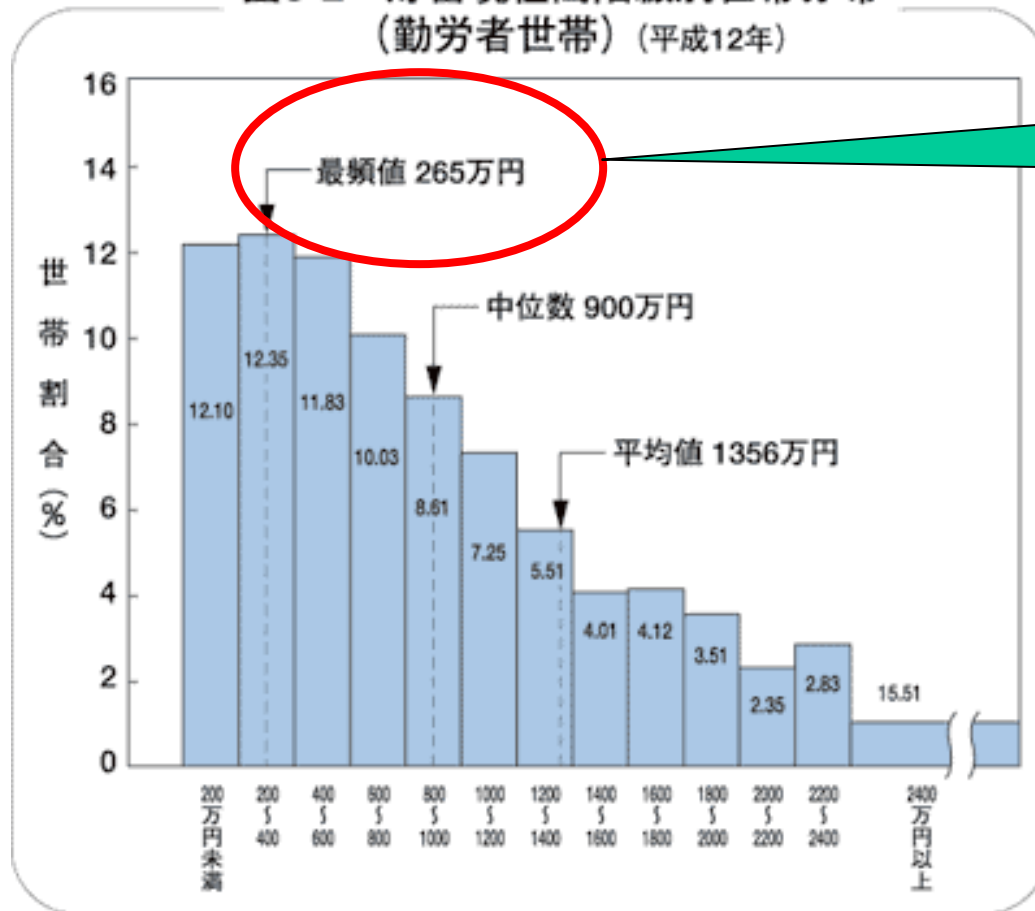


1世帯あたり  
貯蓄現在高  
1,356万円の  
10倍？

総務庁 家計簿調査より

# 国民の貯蓄水準

図6-2 貯蓄現在高階級別世帯分布  
(勤労者世帯) (平成12年)

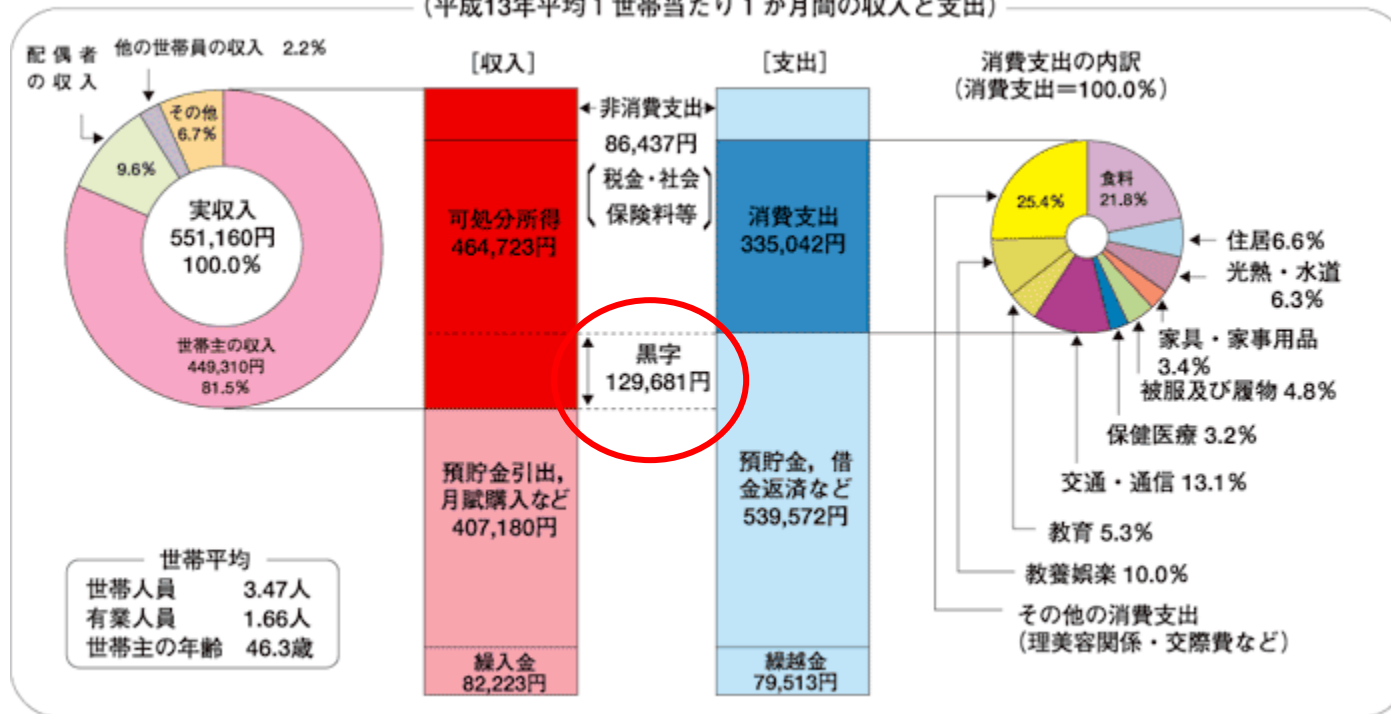


最頻値の  
40倍！

# 家計の収支バランスからはじく47歳の貯蓄予想

図2-1 家計収支バランス（勤労者世帯）  
（平成13年平均1世帯当たり1か月間の収入と支出）

総務庁  
家計簿調査  
より



※特にことわりのない限り グラフ等の数字は二人以上の世帯（農林漁家世帯を除く）の結果です

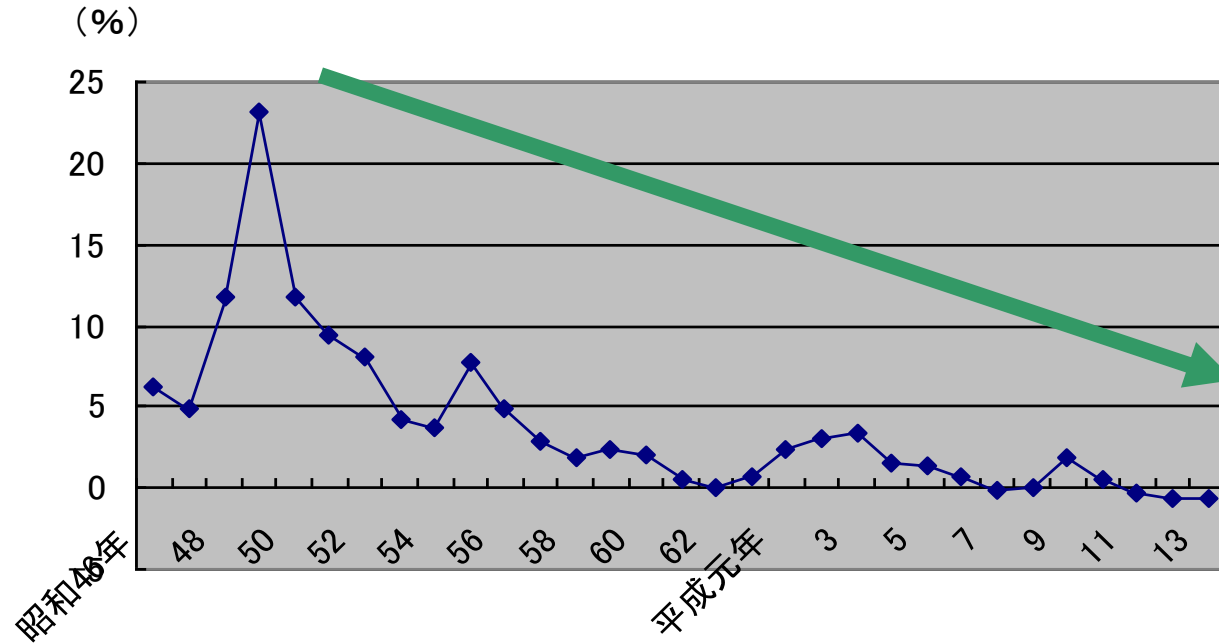
12.9 × 12ヶ月 × 10年 = 1,556万円

目標の1/7  
(これですら厳しい)

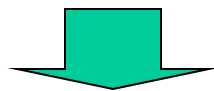


# デフレの進行

消費者物価指数(前年同月比)



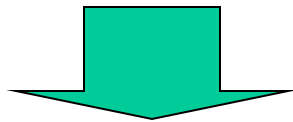
デフレの進行による所得水準の停滞



目標達成はさらに困難に？

# 目標「10年後に1億円」とは？

- 一般論で言うと、非常に到達困難な目標
- 現在の環境下では、更に到達困難な状況



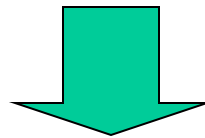
- 諦める？
- 諦めないとしたら、どういう方向であれば可能？

# 目標達成のための方向性

# 余裕資金で1億円貯めるためには？

- 家計の黒字 = 155.6万円/年 (13万円 × 12)

家計簿調査(前出)より



毎年、年率38%の(投資)成果が必要

	(1,000円)										
RATE(%/Year)	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	
38.32	¥1,556	¥2,152	¥2,977	¥4,118	¥5,696	¥7,879	¥10,899	¥15,075	¥20,852	¥28,842	
		¥1,556	¥2,152	¥2,977	¥4,118	¥5,696	¥7,879	¥10,899	¥15,075	¥20,852	
			¥1,556	¥2,152	¥2,977	¥4,118	¥5,696	¥7,879	¥10,899	¥15,075	
				¥1,556	¥2,152	¥2,977	¥4,118	¥5,696	¥7,879	¥10,899	
					¥1,556	¥2,152	¥2,977	¥4,118	¥5,696	¥7,879	
						¥1,556	¥2,152	¥2,977	¥4,118	¥5,696	
							¥1,556	¥2,152	¥2,977	¥4,118	
								¥1,556	¥2,152	¥2,977	
									¥1,556	¥2,152	
										¥1,556	
											¥100,046

# 1年定期金利=0.04%で運用した場合

(1,000円)

RATE(%/Year)	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
0.04	¥1,556	¥1,557	¥1,557	¥1,558	¥1,559	¥1,559	¥1,560	¥1,561	¥1,561	¥1,562
		¥1,556	¥1,557	¥1,557	¥1,558	¥1,559	¥1,559	¥1,560	¥1,561	¥1,561
			¥1,556	¥1,557	¥1,557	¥1,558	¥1,559	¥1,559	¥1,560	¥1,561
				¥1,556	¥1,557	¥1,557	¥1,558	¥1,559	¥1,559	¥1,560
					¥1,556	¥1,557	¥1,557	¥1,558	¥1,559	¥1,559
						¥1,556	¥1,557	¥1,557	¥1,558	¥1,559
							¥1,556	¥1,557	¥1,557	¥1,558
								¥1,556	¥1,557	¥1,557
									¥1,556	¥1,557
										¥1,556

**¥15,590**

# 最近17年(85-02)の平均国債利回り=4.02%で運用した場合

(1,000円)

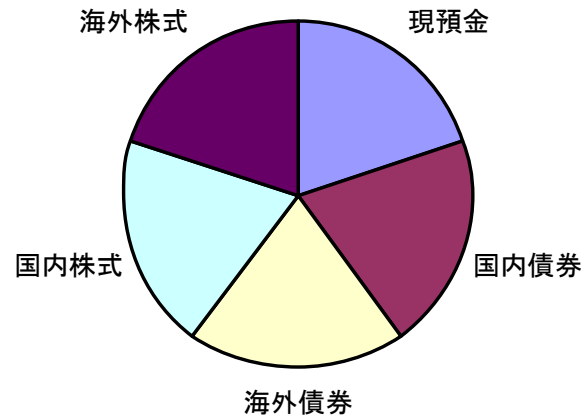
RATE(%/Year)	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
4.02	¥1,556	¥1,619	¥1,684	¥1,751	¥1,822	¥1,895	¥1,971	¥2,051	¥2,133	¥2,219
		¥1,556	¥1,619	¥1,684	¥1,751	¥1,822	¥1,895	¥1,971	¥2,051	¥2,133
			¥1,556	¥1,619	¥1,684	¥1,751	¥1,822	¥1,895	¥1,971	¥2,051
				¥1,556	¥1,619	¥1,684	¥1,751	¥1,822	¥1,895	¥1,971
					¥1,556	¥1,619	¥1,684	¥1,751	¥1,822	¥1,895
						¥1,556	¥1,619	¥1,684	¥1,751	¥1,822
							¥1,556	¥1,619	¥1,684	¥1,751
								¥1,556	¥1,619	¥1,684
									¥1,556	¥1,619
										¥1,556

**¥18,701**

# では、アセット・アロケーション・ アプローチでは？

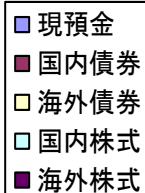
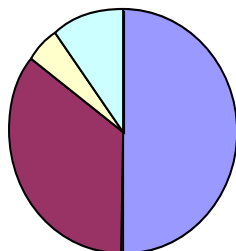
- アセット・アロケーションとは？

- 投資する資産クラスを分散することでリスクをコントロールしつつ、効果的なリターン追求を図る、ということ

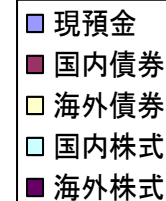
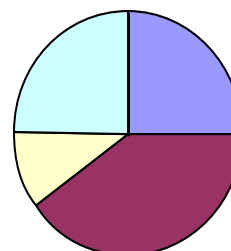


# (参考)ML日本証券のサンプル・ポートフォリオ

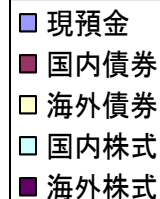
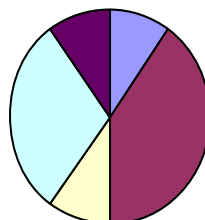
タイプ1(元本重視型)



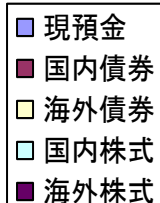
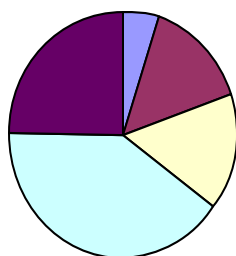
タイプ2(利子配当重視型)



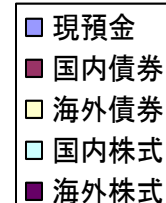
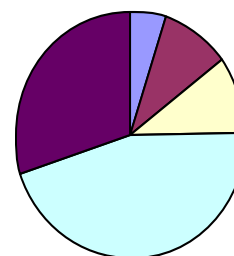
タイプ3(利子配当およびキャピタル・ゲイン・バランス型)



タイプ4(キャピタルゲイン重視型)



タイプ5(キャピタルゲイン追求型)



# (参考) サンプル・ポートフォリオのリターン

## ● サンプル・ポートフォリオのパフォーマンス [1992/8-2002/7]

	タイプ1	タイプ2	タイプ3	タイプ4	タイプ5
平均収益率(%)	3.04	3.27	4.52	5.53	5.53
標準偏差	2.69	4.99	6.83	10.68	12.16
過去最高収益率(%)	8.66	15.72	23.95	39.08	42.58
過去最低収益率(%)	(1.47)	(4.32)	(7.49)	(13.28)	(15.99)

野尻智司著『投資力』より 引用

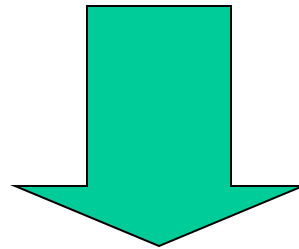
## ● 10年間(1992/8-2002/7)の各資産のパフォーマンス

	1年物定期金利	日本国債	米国国債(円換算)	TOPIX	S&P500(円換算)
平均収益率(%)	1.34	5.88	8.15	(0.91)	14.91
標準偏差	1.64	4.48	15.59	21.51	22.91
過去最高収益率(%)	5.75	15.75	37.24	59.61	68.93
過去最低収益率(%)	0.05	(2.92)	(24.10)	(31.17)	(27.37)

野尻智司著『投資力』より 引用



『ポートフォリオ』『インデックス』いずれも、年間  
38%の投資成果を継続することは無理！



**「余裕資金」の「分散投資」では目  
標達成は難しい!!**

# 「余裕資金」の「分散投資」以外の方法は？

## 1. 「余裕資金」の額を増やす

- △ 収入を増やす = 高給取り(弁護士/医者)になる？
- 支出を減らす = 飲まず食わずの生活

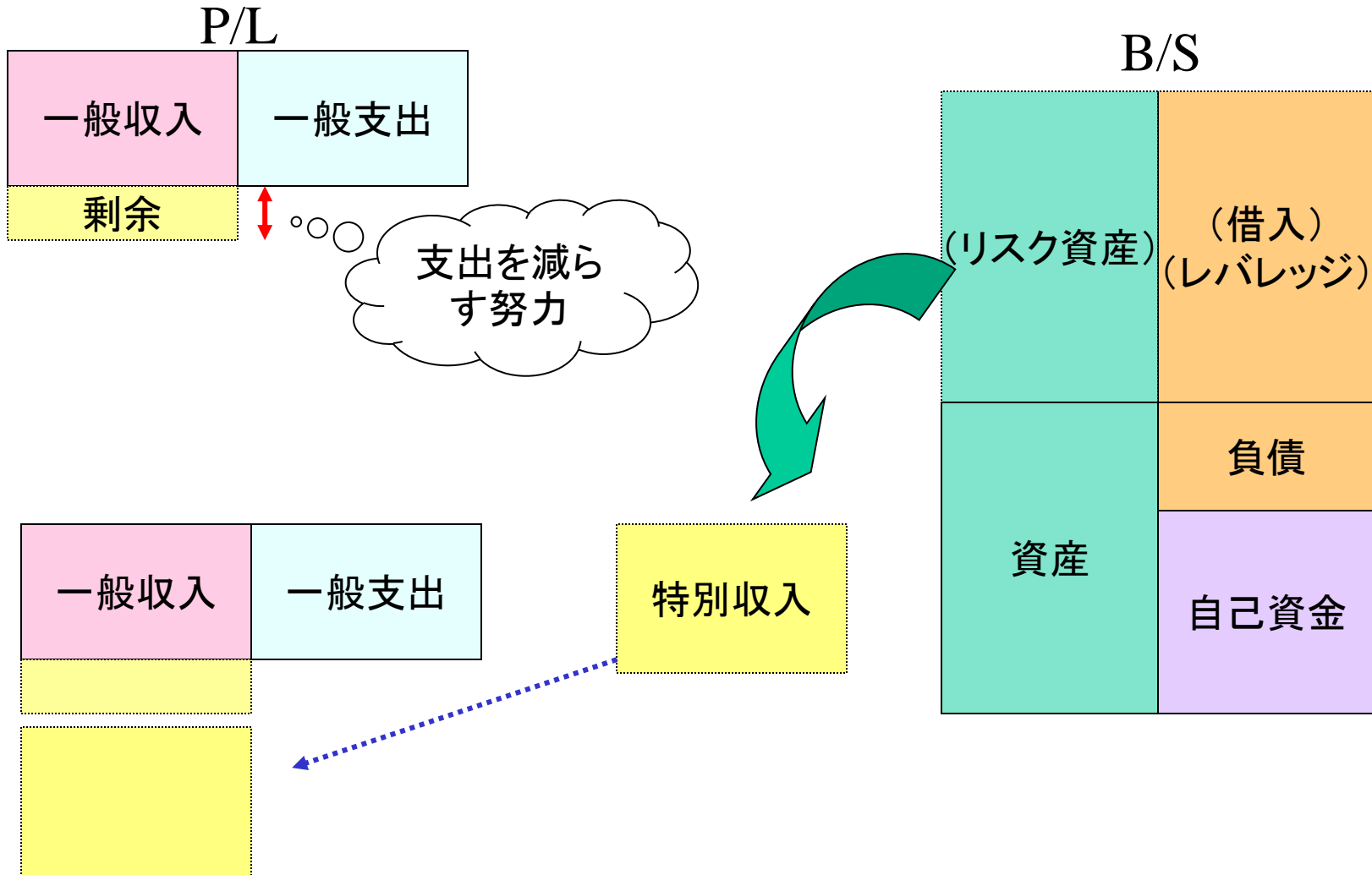
## 2. 「余裕資金」以外の金をつぎ込む

- 借り入れ/レバレッジ投資

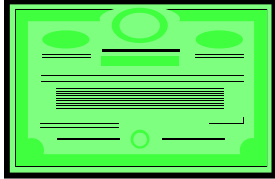
## 3. 「分散投資」→「集中投資」(リスクをとる)

- “これは！”と思う投資先(事業)にベットする

# 目的達成の方向性



# 何も「株式投資」に限定するものではない



・株式投資



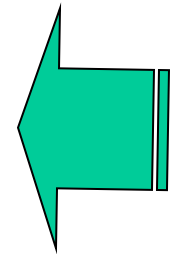
・事業を始める  
(=会社の株という  
資産を持つ)



・作家になる  
(=“知”という無形  
資産を活用)  
※ただし、レバレッジなし



・投資用不動産へ投資



B/S

(リスク資産)	(借入) (レバレッジ)
資産	負債
	自己資金

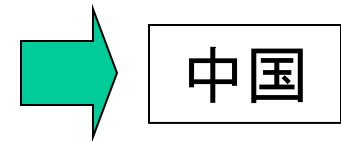
すべて“リスクを取って未来に投資する”という行為

# 目標達成の方法

～未来を読む～

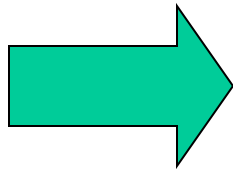
# 私たちを取り巻く現状（世界）

- 1990年代→グローバル化/資本経済化
  - ソ連崩壊＝資本主義体制の勝利
    - 米国を機軸＝“グローバル・スタンダード”とする世界
    - 米国＝401K（資本経済の加速化）
  - 情報/通信手段の発達＝世界の均質化
    - （1995 ジャカルタ日本人学校同窓会）
      - 豪邸・・・バスケット・リンク、巨大パラボラアンテナ
      - デパート・・・テニス、バスケット⇔サッカー
  - インターネット！
  - “世界分業”、“世界市場”
    - EU→アイルランド、ハンガリー、旧東独（独）
    - US→メキシコ
    - 日本→アジア諸国



# 私たちを取り巻く現状（世界）

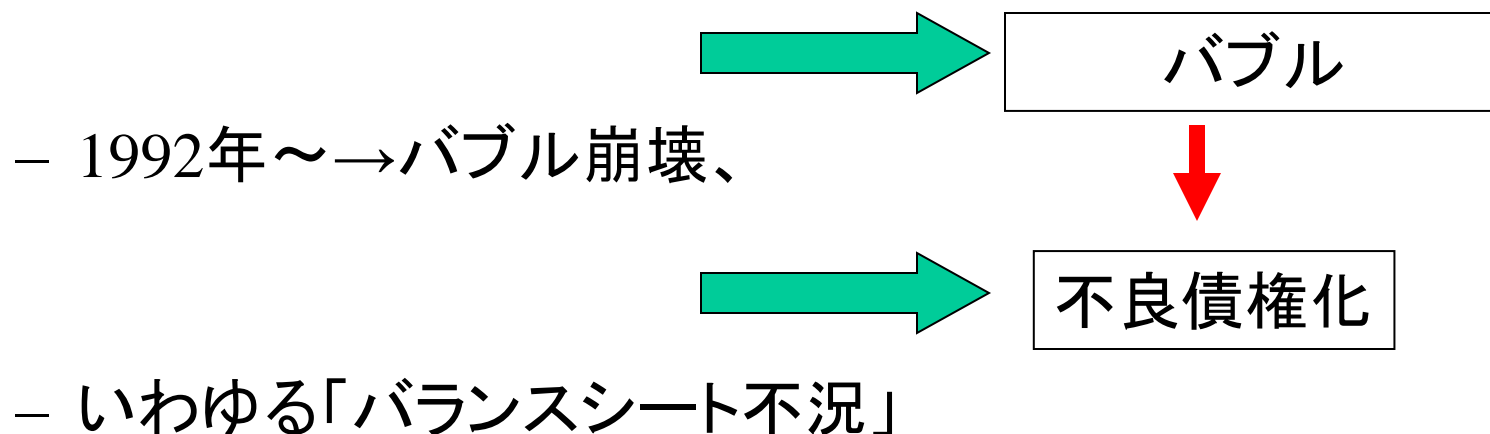
- 2000年→グローバル化/資本経済化の疲弊/反動
  - 強者の一人勝ち＝勝つためなら何でもありの機運
    - 米国の自国優先政策
    - エンロン・ワールドコム・ショック
  - 強者の一人勝ち＝取り残された敗者の不満
    - 第三世界≡イスラム



テロ

# 私たちを取り巻く現状（国内）

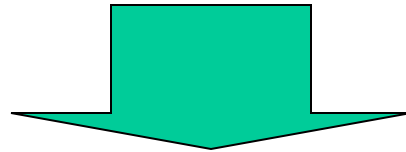
- 日本の「失われた10年」
  - 1980年代（プラザ合意）を経て→日本においては“規制緩和”（グローバル化の走り）
    - 円高不況を克服→“消費拡大社会へ”
    - 低金利下、民間・公共とも投資拡大



- “拝金主義”の横行→“喪失感・停滞感”



- 日本はどうか？
  - 高齢化と資本市場化/risk take
- 世界はどうか？
  - 中国の存在



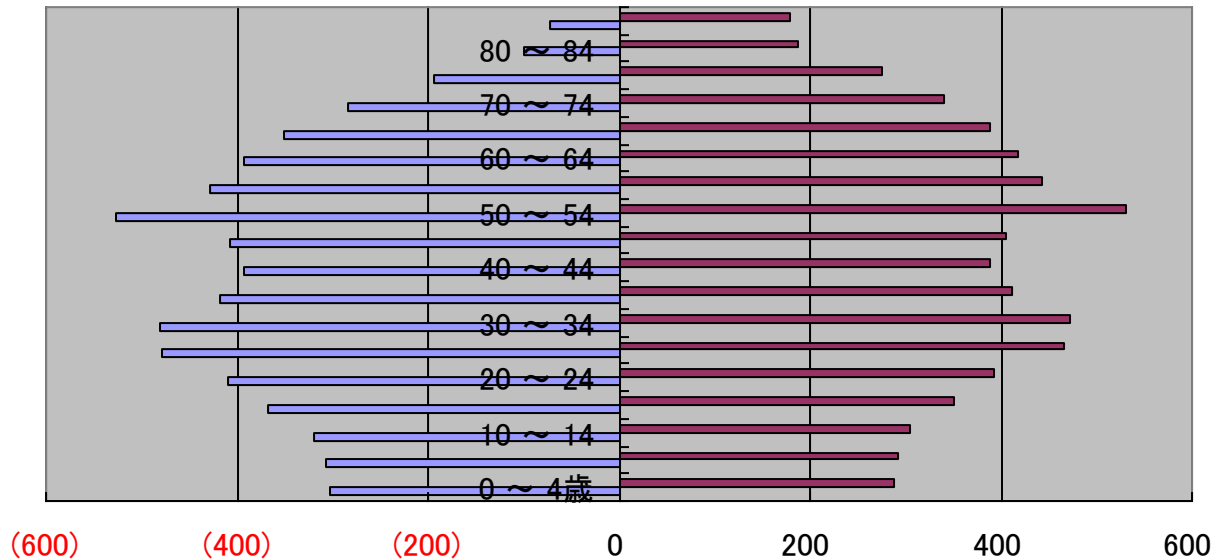
チャンスはどこに？



# これからの日本-高齢化-

- 高齢化: 2030年 = 65歳以上が30%以上に

人口ピラミッド



厚生労働省

# 日本の個人金融資産

動かない「1400兆円」

## ●世界の個人金融資産配分(%) 2000年末(ドイツ・フランスは1999年末)

	現金・預金	債券	投資信託	株式・出資 金	保険・年金 準備金	その他	資産	うち対家計
日本	54.5	5.1	2.6	6.4	27	4.5	1,442兆円	52兆円
米国	10.6	9.2	11.9	34.1	31.6	2.6	33.7兆ドル	
イギリス	22.2	1.3	5.8	16.9	50.3	3.5	2.9兆ポンド	
ドイツ	35.2	10.1	10.5	16.8	26.4	1.1	7.0兆マルク	
フランス	25.3	1.8	8.7	39.7	20.6	3.9	21.5兆フラン	0.3兆フラン

資金循環統計より

## ●年代別純資産現在高(貯蓄現在高－負債現在高)の分布

世代	%	%
30歳未満	0.29%	35.35%
30歳以上～40歳	-1.19%	
40歳以上～50歳未満	7.49%	
50歳以上～60歳未満	28.76%	
60歳以上～70歳未満	41.36%	
70歳以上	23.29%	64.65%
	100.00%	100.00%

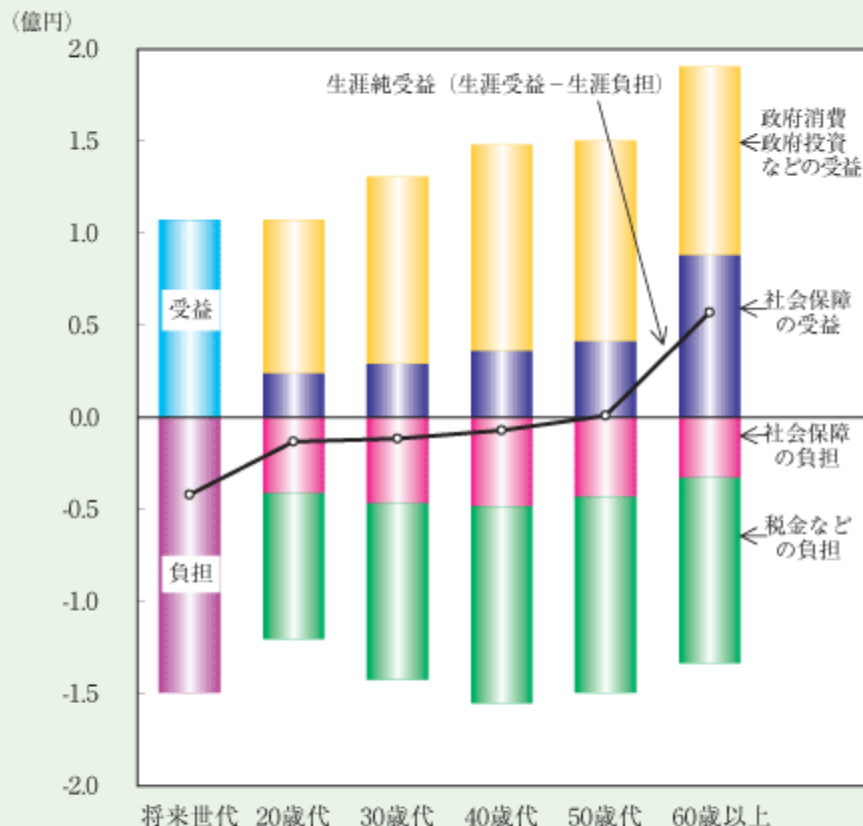
リスク商品に向かっ  
ていないのはある意  
味当然？

出所:H11 全国消費実態調査「世帯主の年齢階層別貯蓄」より

# 「山」はいずれ動かざるを得ない？

第3-3-5図 生涯の受益と負担

高齢世代は、生涯を通じて大相な受益超過



- (備考) 1. 内閣府「国民経済計算」、総務省「家計調査」「全国消費実態調査」「国勢調査」、厚生労働省「社会保障統計年報」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」により作成。  
 2. 将来世代は、最近時点(99年)の受益水準が今後も維持される前提により算出。

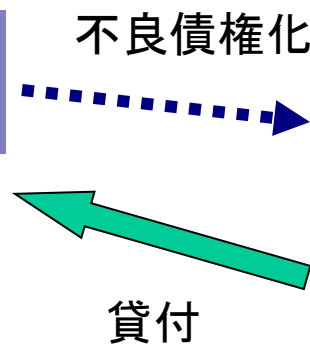
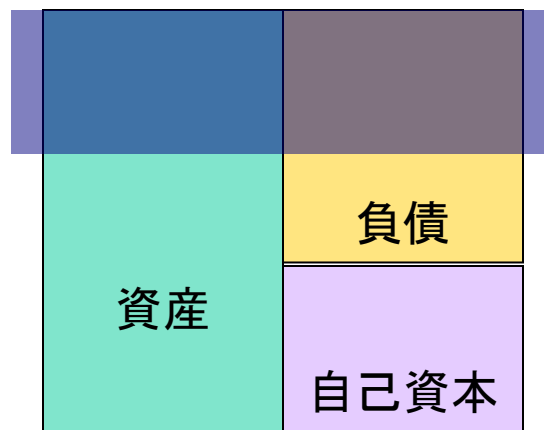
(再掲載)

H13 内閣府  
「年次経済財政  
報告」より

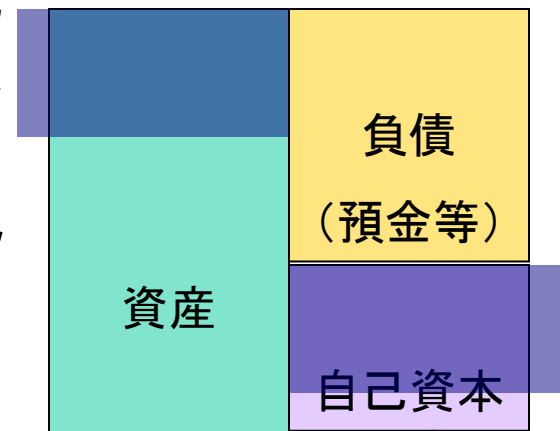
# 日本の不良債権

- バランスシート不況（民間/公的）
  - バランスシートを“綺麗に”してはじめて回復可能
    - 銀行の不良債権残高＝27兆円（14年3月期）
    - 要注意先以下＝150兆円（12年3月データ）
    - 10年間で処理した不良債権額＝80兆円

（不良債権の単純図） 企業（等）のB/S



銀行のB/S



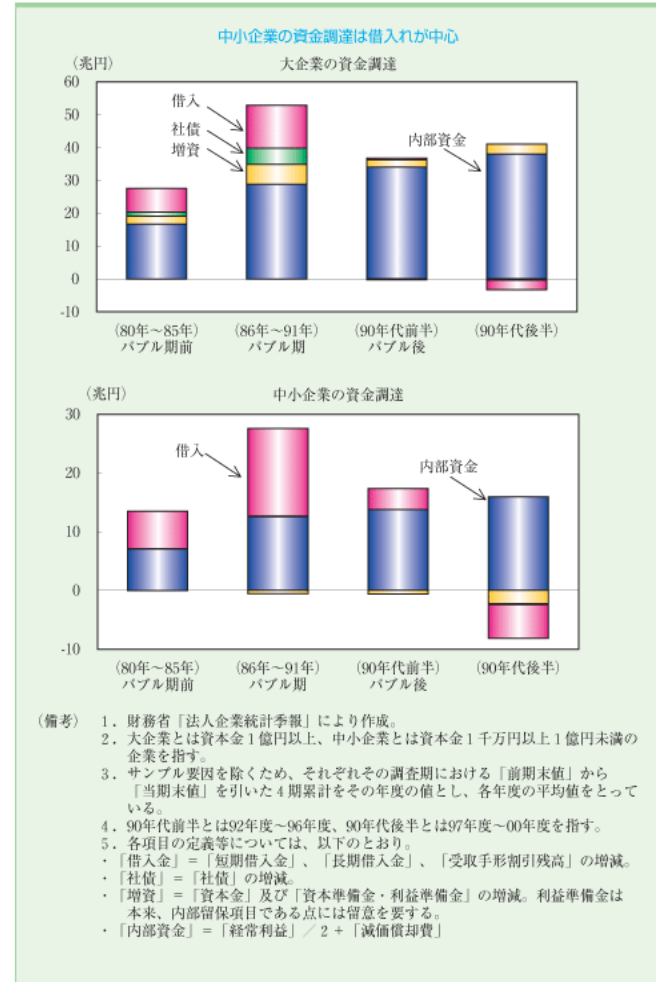
# 日本の不良債権

— 銀行の「信用供与」余力の回復なくして大幅な経済回復はありえない

- 日本は間接金融中心
  - 日本の企業の9割を占める中小企業は「銀行借入」のみ
  - 本来、中小企業の中に将来の日本を担う企業

内閣府「H13 年次経済財政報告」より

第2-2-1図 大企業と中小企業の資金調達



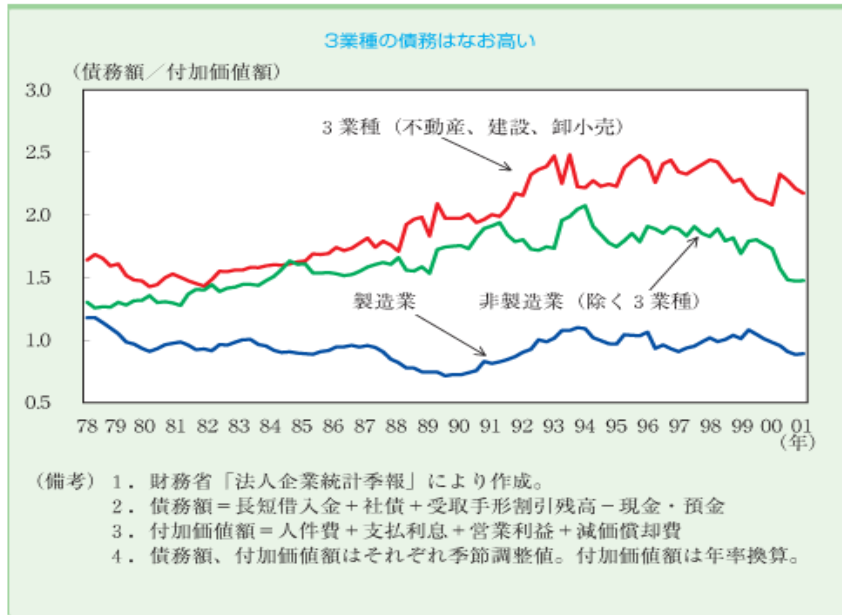
# 日本の不良債権

– 日本の不良債権は一部の業種に集中

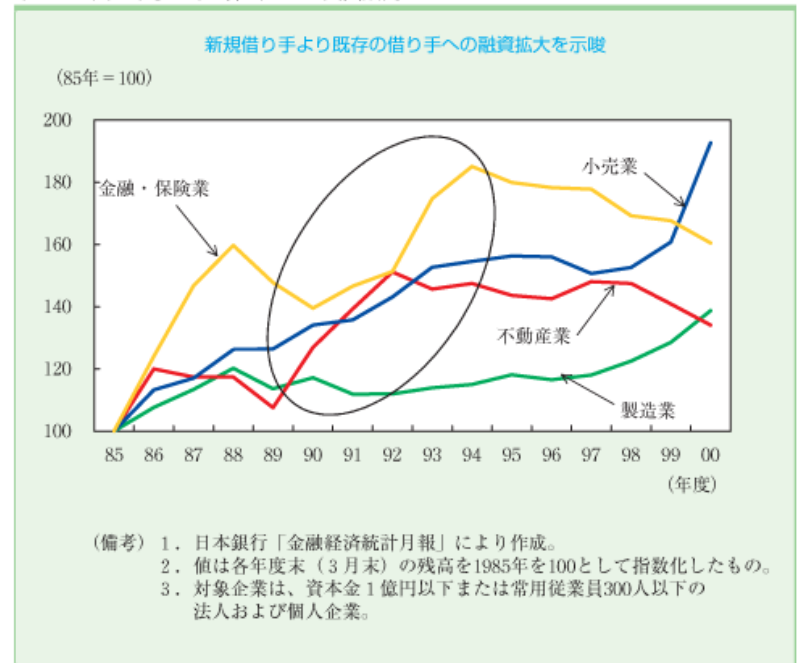
• 依然大きいバブルのツケ

– 将来の成長企業への貸出抑制に

第2-1-9図 企業債務の推移



第2-2-5図 中小企業1件当たりの貸出残高



内閣府「H13 年次経済財政報告」より

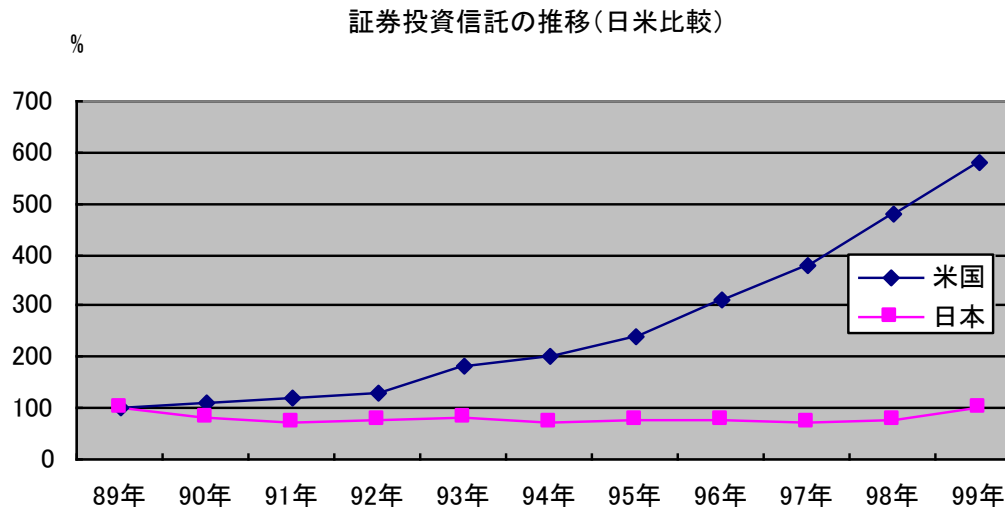
# 直接金融(資本市場)への期待

– 企業: 銀行借入依存から資本市場での資金調達へ

• 私募での起債や新規公開 etc

• 求められる1400兆円

⇒ 個人投資家のリスクテイク



《投資信託の  
残高の伸び》

日銀「入門  
資金循環」より



# 直接金融(資本市場)への期待

– 銀行:(不良)債権の流通市場

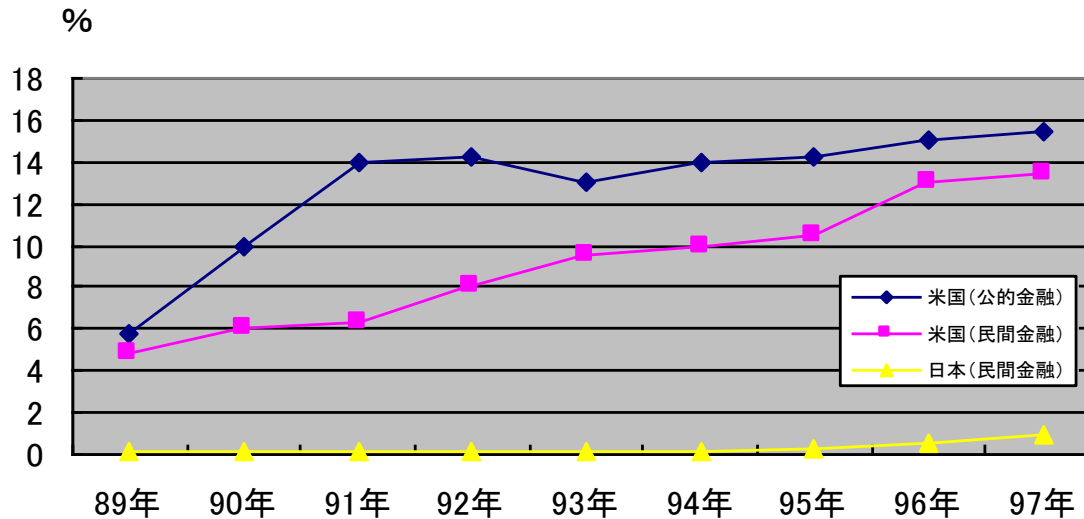
- 様々な証券化商品

バランスシート  
の整理

• 求められる1400兆円

⇒個人投資家のリスクテイク

貸出に対する債権流動化商品の比率(日米比較)



《債権流動化  
商品の残高の  
伸び》

日銀「入門  
資金循環」より

# 新しい投資対象と高齢化

## – 新しい投資対象

- 無形資産
  - 知的財産(著作権、特許など)



証券化へ期待

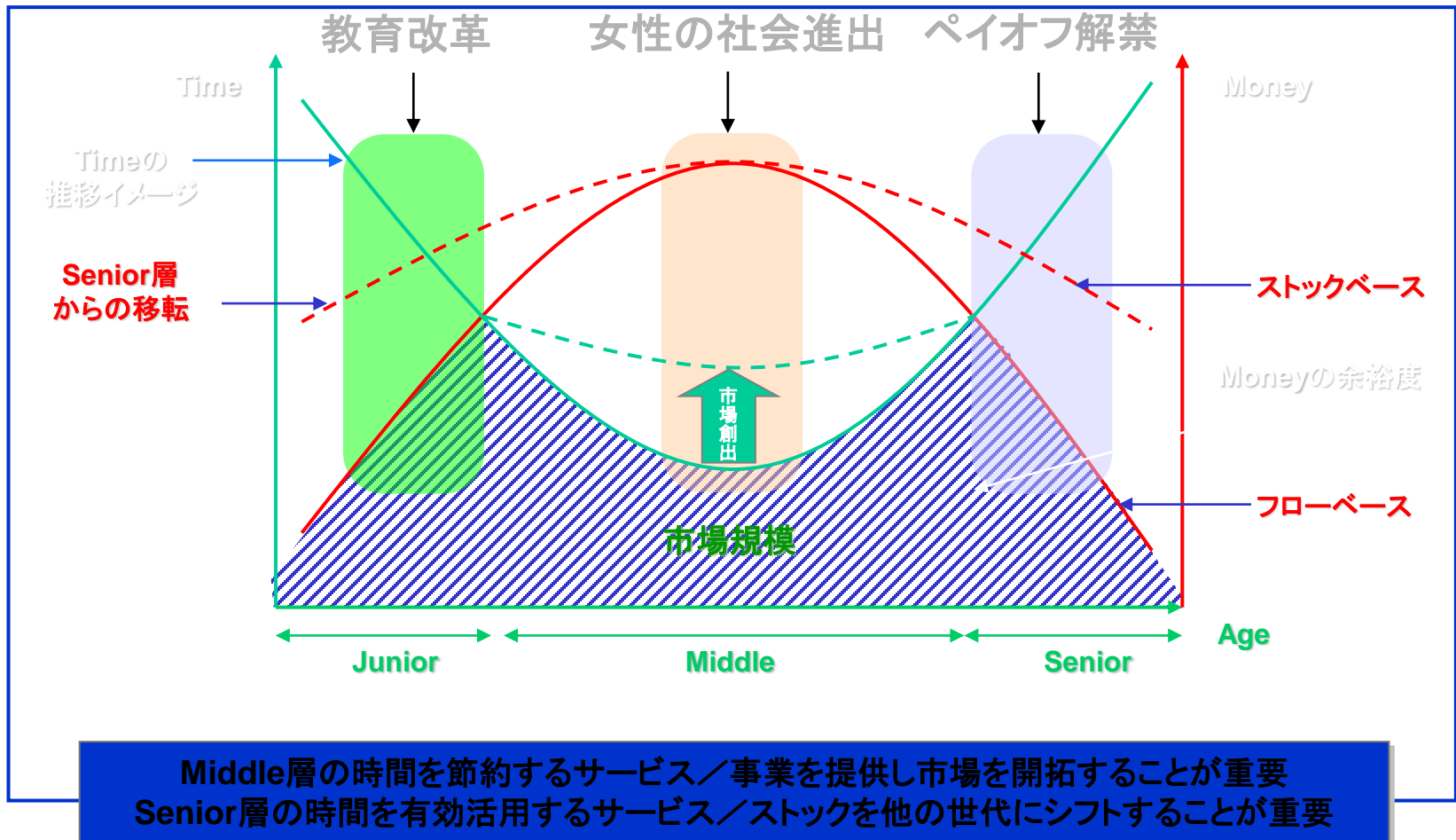
## – 高齢化の流れ

- 年齢層ごとのニーズに変化
  - 教育改革
  - 女性の社会進出
  - ペイオフ解禁



# (ご参考) 2002年 ユーザーの変化

ジュニア、ミドル、シニアの3つの年齢層で変化がスタート



# 国には頼れない

- 日本の財政は“火の車”
  - 少子高齢化による負担増
  - バブル期の投融資で不良債権化

第3-2-1表 公的部門の資産・負債のストック・データ（試算）

(兆円)

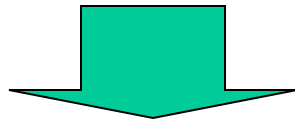
1999年度	公的部門							
	一般政府					公的企業		
		中央政府	地方政府	社会保険 基金		公的 金融機関	公的 非金融 法人企業	
資産総額	2274.2	891.3	220.9	434.5	235.9	1382.9	1214.7	168.2
金融資産	1646.9	406.1	113.2	58.9	233.9	1240.8	1213.8	27.1
非金融資産	627.2	485.2	107.7	375.5	2.0	142.0	0.9	141.1
有形固定資産	425.8	326.7	82.2	243.1	1.4	99.1	0.7	98.4
負債総額	2421.9	1101.2	651.4	195.6	254.2	1320.7	1184.8	135.9
公債残高	498.3	420.6	369.9	50.7	0.0	77.7	27.7	50.1
退職金債務	52.6	46.6	12.6	33.9	0.1	6.0	0.2	5.7
年金債務	424.4	424.4	155.8	36.8	231.8	-	-	-
正味資産	-147.7	-209.9	-430.5	238.9	-18.3	62.2	29.9	32.3

内閣府「H13 年次  
経済財政報告」より

- (備考)
1. 内閣府試算による。
  2. 公債残高は、国債、地方債及び政府関係機関債の合計。
  3. 負債総額は、ケース3の年金債務額をベースとする。

# これからの世界

- グローバル・デフレの様相
  - 10年間でアルミ・亜鉛などの国際商品価格3～5割ダウン(12/3 日経より)



## 中国・旧ソ連などの低コスト体質の影響

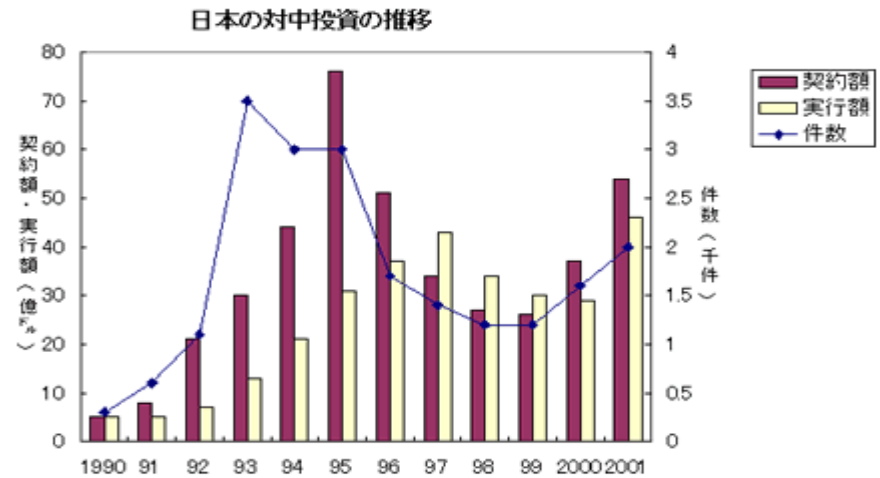
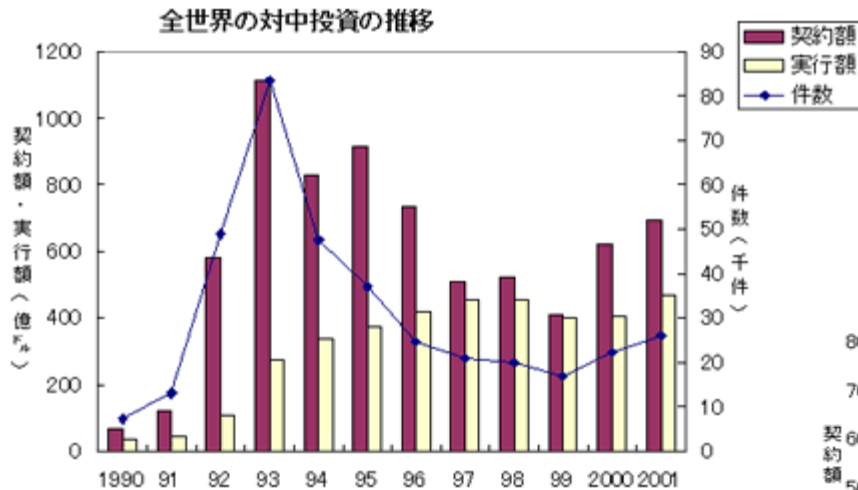
- グローバル化社会＝価格の安いほうに修練される

# これからの世界

- 米国の覇権は当面揺るがない
  - テロも当面終焉しない
- いずれ、米・中2大巨軸へ
  - 2008 北京五輪
  - 東アジアでの日本の存在が“定義”される
    - 米国との同盟強化？
    - ×アジア主義（中国に接近）？
  - 北朝鮮の崩壊→朝鮮半島統一
    - 韓国主導（平和的統一）
    - ×紛争/戦争
  - 中台問題

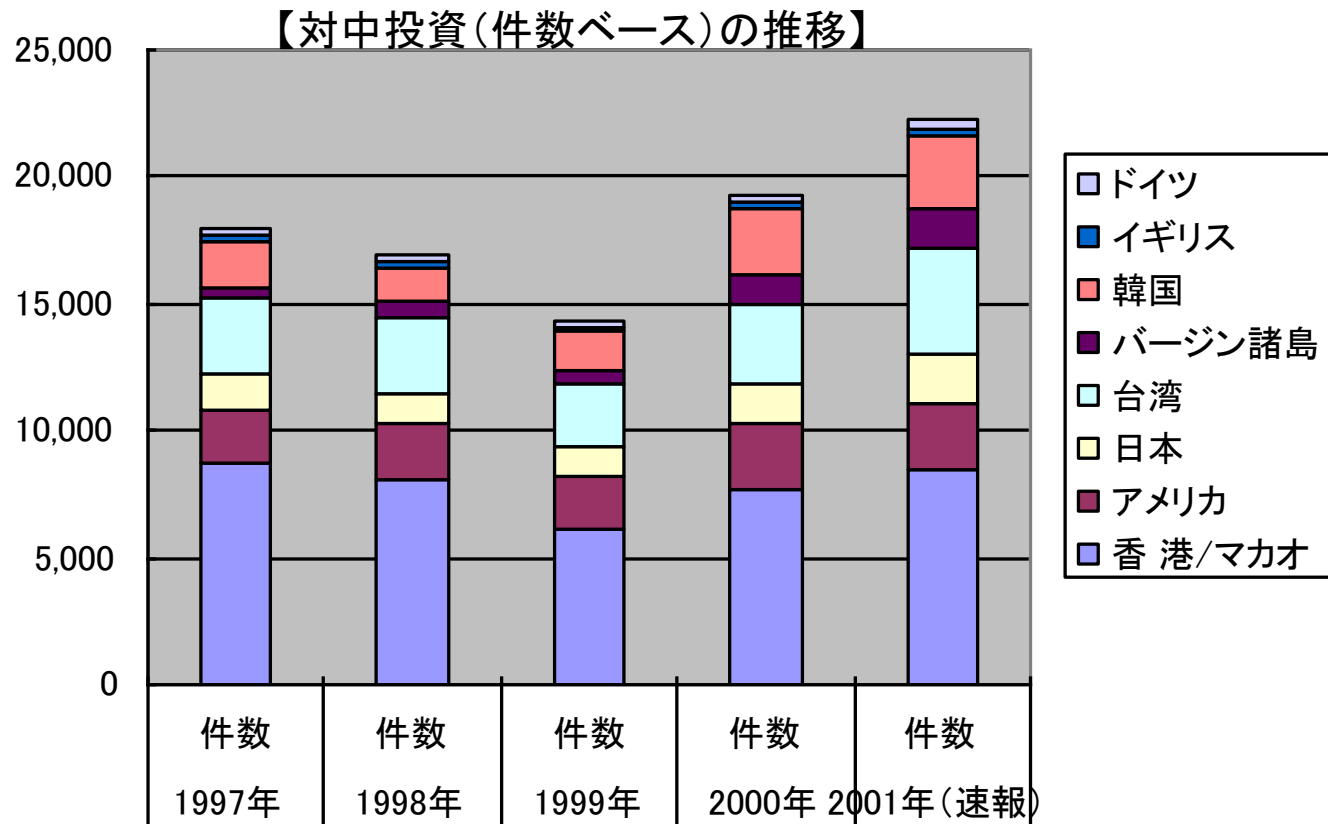
東アジアが  
“火薬庫”  
に？

# 世界の中の今の中国



日中投資促進機構

# 世界の中の今の中国



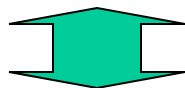
日中投資促進機構より



# 中国をどう見るか

- 「中国脅威論」はまやかし？〈安心論〉

- 対日輸出の大半は“日本企業”によるもの(ユニクロ化)
- 「世界の工場」

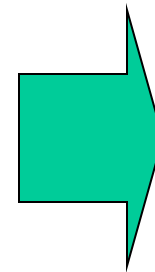


- 中国企業はすでに高位の対外競争力を確保〈脅威論〉

- 自動車などの部品メーカーの一部は既に高い技術力を習得
- シックスシグマ、ジャスト・イン・タイム制など導入

# 中国のメガ・リージョン

- 東北3省(瀋陽、大連)
  - 日系メーカー多い
- 北京・天津回廊(北京、天津)
  - IT、頭脳集約的
- 山東半島(青島)
  - 加工食品
- 長江デルタ(上海)
  - 高技術の製造業
- 福建省(アモイ、福州)
  - 台湾と接近
- 珠江デルタ(深圳、広州)
  - 世界最大のPC産業集積地



中国国内で  
熾烈なリー  
ジョン間競争

大前健一「チャイナ・インパクト」より抜粋

# “中国関連”企業の方向性

- 中国の労働資源を活用するグローバル企業/事業
- グローバルな競争力を持つ中国企業/事業
- 中国の巨大消費マーケットで力のある企業/事業